

「IT を活用した効率的かつ環境に優しい都市圏物流システムに関する研究小委員会」 平成 16 年度活動報告

平成 17 年 6 月 4 日
谷口栄一(京都大学)

1. 平成 16 年度の活動

1.1 概要

本小委員会では、IT を活用した効率的かつ環境に優しい都市圏物流システムを構築するための調査手法、都市圏における物流施策、施策の立案、施策を評価するためのモデル化、実施方法などについて、研究を行った。特に IT や ITS などの新技術を活用した物流システムについて、その長所および課題について、研究を行った。平成 16 年度の研究に参加した研究者は、大学、コンサルタント、運輸会社、建設会社などの計 34 名であった。小委員会は、平成 16 年 4 月から平成 17 年 3 月の間に計 5 回開催した。

1.2 成果の出版、ワンデーセミナー

本研究は、平成 14 年から約 3 年間実施した。その成果をまとめて、平成 17 年 3 月に森北出版より本を出版した。本の目次を以下に示す。

タイトル：「現代の『新』都市物流
－IT を活用した効率的で環境にやさしい都市物流へのアプローチ」

(目次)

1. 今なぜ物流か
2. 物流のとは
3. 都市物流施策の目指すもの
4. 様々な都市物流施策
5. IT, ITS などの新技術の活用
6. 都市物流施策の実施
7. 都市物流施策の業績評価
8. 物流施策を支える調査と研究
9. 今後の展望

この本は、都市計画、交通計画に携わる実務家向けに、都市物流に関する施策を考えるとときのガイドラインとして作成されたものである。都市物流施策の目標、IT・ITS などの新技術の活用、業績評価の手法、施策の実施にあたっての公民連携の方法などを詳細に述べ、具体的な問題解決に役立つような都市物流施策に関する総合的アプローチを示している。

また、本の出版にあわせて、平成 17 年 3 月 22 日にワンデーセミナー「現代の『新』都市物流－IT を活用した効率的で環境にやさしい都市物流へのアプローチ」を土木学会の講堂において開催し、75 名が参加した。

1.3 企画論文、スペシャルセッション

本小委員会は、平成 16 年度土木計画学研究発表会春大会において、企画論文セッションおよびスペシャルセッションを企画、担当した。平成 17 年度においても同様に企画論文セッションおよびスペシャルセッションを企画、担当する。

1.4 海外の委員会との交流

また、本委員会は、海外の OECD の研究委員会”Urban Goods Logistics”, PIARC の技術委員会 TC2.4 “Freight Transportation and Intermodality”, TRB の技術委員会 A1B07 ”Urban Freight

Transportation”とは、常時情報交換を行ってきた。また、平成 17 年 7 月 12・14 日にマレーシアで開催される第 4 回シティロジスティクス国際会議にも、積極的に参加する。

2. 平成 17 年度以降の活動予定

この小委員会は、平成 17 年 3 月で一応終了する。平成 17 年度以降は、別の小委員会として、新たに発展的に継続したい。小委員会名は、「**物流の調査・モデル化・評価の方法論に関する研究小委員会**」とし、期間は約 3 年間としたい。平成 16 年 1・2 月に東京都市圏物資流動調査が実施され、平成 17 年度に京阪神物資流動調査および道路交通センサスが実施される予定である。このような大規模な調査および最近の I T S を活用したプローブデータなどの活用に関連して、物流の調査方法、数理モデルによる解析、および物流施策の評価手法について、研究を行う小委員会を設立したい。また、アメリカにおいて、Freight Analysis Framework (FAF) および Freight Model Improvement Program (FMIP) などの研究プログラムが開始されている。そのような動きと連携をとりながら、研究活動を実施したい。